

## 働きがいのある鉄道車両製造事業の実現を求める申し入れ

第1項 株式会社総合車両制作所（J-TREC）および東日本トランスポート株式会社（J-TREC）の安定した経営基盤を確立するため、事業移管後10年の経営計画を策定すること。また、JR東日本内に「経営の第4の柱」を中心的に担う部署を設立し、JR東日本としてグループ会社に責任を持つこと。

会社

- 10年間の具体的な計画、製造部門は受注数売り上げが大きく変動するため、10年間の具体的な計画を策定することは難しいが、10年後の目標として1000億円を目指す。
- 新生J-TRECになってから新たな計画を策定することになる。
- 車両製造事業を海外に向けて軌道にのせる為、JR本体がグループ会社を統括し、経営に責任を持つ。
- 車両製造事業が今後進展していく中でも、現在本社運輸車両部、車両製造プロジェクトの役割は変わるものではない。将来の事業規模に応じて体制は検討するが、JR東日本の役割が果たす体制を確立していく。

第2項 JR本体に車両製造および設計業務に携わる部門を拡大し、車両製造に関わる技術力を維持向上できる体制を確立すること。

会社

- 車両製造や設計の拡大は現時点では考えていない。
- 車両製造に関わる技術は、J-TRECの中で確立し、グループの中で保持する。
- JR内には、車両製造設計など、一定の経験を積んで、全体をとりまとめることができる人材を育成する。
- 設計の専門家はJ-TRECの中で育成する考えだ。

第3項 ロボット技術、次世代車両開発、レーザー溶接等の技術開発に関わる業務については、JR本体として運営すること。

会社

- 技術やノウハウは各社が持つべきもの。パートナー会社としてJ-TRECを選ぶことはあるので、共同開発や委託開発は引き続き行う。
- 235系開発やsustina戦略は、J-TRECと一緒に取り組んでいく。またレーザー溶接は、コストを考えると共同開発していく可能性がある。ロボットについては伸ばさないといけない技術、本体かJ-TRECかは見極める。
- J-TRECが研究開発を主体として行っても、縮小されることはない。研究開発はこれまで以上に充実していく。
- J-TRECとして必要な技術開発は継続し、設備投資への支援とバックアップはする。これまでの品質が下がることはない。

働きがいのある職場をつくるために、  
要求実現に向けて交渉を継続します!!